

全国学力・学習状況調査 「解説資料」の御案内

～一人一人の課題を把握し，次の指導につなげるために～

- ◆ 調査問題そのものに込められたメッセージを確認することで，学習指導の改善・充実に生かすことができます。
- ◆ 解答類型から児童生徒のつまずきを速やかに把握することで，調査結果の返却を待たずとも，明日の学習指導の改善・充実に生かすことができます。

「解説資料」の特徴

- 問題ごと**に，学習指導の改善・充実にを図るための情報を盛り込んでいます
出題の趣旨，学習指導要領における領域・内容，解答類型，正答や予想される誤答の解説，学習指導の改善・充実にを図るためのポイント等を記述しています。
- 調査**対象学年だけでなく，全ての先生が活用**できます
調査問題は，小学校では第5学年まで，中学校では第2学年までの内容を出題しています。調査の対象学年だけでなく，全学年を通じた学習指導の改善・充実に活用できます。
- 調査**実施後，結果が出る前の段階から，すぐに活用**できます
自校での採点を含め，日々の学習指導の改善・充実にを図る際に役立てることができます。
- 一人一人の**つまずきが見える**よう「**解答類型**」を設けています
各問題について，正答の条件などに即して解答を分類，整理するための「解答類型」を設けています。正誤だけでなく，一人一人の誤答の状況（どこでつまずいているのか）に着目して，学習指導の改善・充実にを図ることができます。
- 関連する**過去の資料も活用**することができます
過去の調査の報告書や授業アイデア例も併せて活用することができるよう，問題ごとに，関連する資料の該当ページを記載しています。

※過去の報告書・授業アイデア例は，国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



「解説資料」の活用事例

全学年の児童生徒，全校の先生方に，全国学力・学習状況調査を役立てていただけるよう，次のような「解説資料」の活用事例を紹介します。

学校では…

◎ 調査問題を対象学年の先生方だけでなく，他の先生と一緒に解いてみる。
そして，解説資料を参考としながら，どのような力が必要なのか考える。

◎ 調査実施後，児童生徒の解答を自校で採点する。
その際，解説資料を参考としながら，児童生徒の誤答傾向や不十分な解答を把握し，弱点・つまずきを捉える。

◎ 解説資料の「学習指導に当たって」を参考として，指導計画の改善・充実を図る。

◎ 調査問題や解説資料を参考として，授業で扱う教材づくりや学習の成果を評価するための問題づくりの参考とする。

◎ 校内での授業研究において，調査問題に関連した課題を取り上げる際，解説資料を参考としながら，全国学力・学習状況調査との関係を学習指導案に明記する。

教育委員会では…

◎ 各教育委員会等での研修会等において，調査問題に関連した課題を取り上げ，解説資料をもとにして検討する。
その際，関連する過去の問題に当たったり，授業アイデア例を参考にしたりして，授業づくりを行う。

調査問題には，問題ごとに学習指導の改善・充実に向けたメッセージがあります。日々の授業における様々な場面において，1問からでも取り上げていくことが可能です。

全国学力・学習状況調査の調査問題と解説資料をお役立ていただき，先生方の日々の指導のアイデアが広がっていくことを期待しています。

